

たのしい たのしい 船穂校♪

倉敷市立船穂小学校

夏祭り

8月26日に、サマーフェスティバルinFUNAO、引き続いて船穂夏祭りが開催された。12年ぶりの夏祭りということもあり、主催された方々には大変な苦労があったのではと思った。その努力は、参加者の満面の笑顔によって報われたと思うし、祭りに関わったすべての人が船穂小学校区への所属感や仲間意識に浸ることができたのではないかと思った。

わたしは、サマーフェスティバルinFUNAOの輪投げのブースを今年も受け持った。去年は、担当者3人だけだったので、しんぼうたまらないぐらいしんどかった。今年は、受付を浅野先生と門野先生、輪投げの補助をわたしと井上先生と学生ボランティア、景品係りを藤井先生と6人で担当したので、去年よりはずいぶん楽で子どもたちの表情を見るゆとりがありとても楽しかった。

角材の太さと高さを変え、その上にアヒルの人形やハムスターなどいろいろなぬいぐるみを乗せて難易度を変え、点数を50点とか100点とかにしていた。堅実に手前のアヒルやイルカをねらう子もいれば、いきなり難しいパンダやカメをねらう子もいる。輪を投げる時は、皆真剣そのもので、成功して喜ぶ姿も、失敗して肩を落とす姿も、子どもらしく生き生きとしていた。「やったー！おめでとうございます。」「うーん残念！」などと大声を張り上げていたので終わりのころにはのどがガラガラになり声がかすれてきた。3時間半という時間が終わってみると短く感じられた。

わたしが生まれた学区にも夏祭りがあり今も行われている。夏休みは、早朝のクワガタとりに始まり、ラジオ体操、宿題、川で泳いで魚をとって、みんなでスイカを食べたら一日が終わるといった繰り返しだった。街から遠く離れているので、おもちゃ屋や駄菓子屋に行く機会もまれで、皆が夏祭りを何日も前から楽しみにしていた。

あんどんとちょうちんに照らし出された祭りのやぐらや、白熱電球の灯る屋台など、今も鮮やかに思い出される。自転車に乗っての帰り道、金魚すくいの金魚を袋ごと落としてしまい、いとこの兄ちゃんが懐中電灯で捜して一匹ずつ拾ってくれたことも忘れ難い思い出になっている。

きっと、子どもたちの心にもわたしと同じような思い出が刻まれたに違いない。子どもたちのために、行事を開催してくださった船穂小学校区コミュニティー協議会の皆様と親師会の皆様に感謝申し上げたい。そして、サマーフェスティバルinFUNAOと、船穂夏祭りが来年も再来年も引き続き開催されることを願っている。

